

やまがた米だより

No. 4

平成29年7月31日

山形の新しいお米



山形から元気なお米



山形県庁県産米ブランド推進課
山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化戦略推進本部
オールやまがた米づくり日本一運動本部

雪若丸ロゴマーク決定！



吉村知事とチーム雪若丸が米袋をお披露目しました

7月13日(木)、ホテルメトロポリタン山形にて「雪若丸」ロゴ・米袋デザイン・キャッチフレーズ発表会が行われました。ロゴマークは、「日本の元気を食卓から」をテーマにしており、大きな赤い丸は日本と太陽を、小さな緑色の丸はたっぷりごはんが盛られたお茶碗を、四つ並んだ形は食卓に集まった家族とその笑顔を表現しています。キャッチフレーズは、「つぶ、いきいき。」「雪若丸」の特長である、ひと粒ひと粒の食べ応えや「新食感」を連想させるものとなりました。

どんなおかずにも合うおいしさで、皆さまの食卓をもっと笑顔にしたい。そして、たくさん食べて毎日を元気に過ごしていただきたい。そんな生産者や私たちの願いが込められた「雪若丸」は、いよいよこの秋、先行販売を行います。この米袋を見かけた際は、ぜひ手に取っていただき、お茶碗いっぱい食べてみてください！

第1回山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化戦略推進本部会議を開催

「雪若丸」ロゴ等発表会と合わせて、第1回山形「つや姫」「雪若丸」ブランド化戦略推進本部会議を開催しました。

平成30年産の生産量は、「つや姫」が約51,000t(平成29年産と同量)、「雪若丸」が約10,000t(平成29年産より800t増加)の見込みです。

今後、「つや姫」と「雪若丸」は連携してブランド化を進め、山形県産米のPRや評価の向上に努めていきます。



稲は順調に生育中！

県内の田んぼは、夏の日差しを浴びて一面さわやかな緑となりました。

7月7日（金）、農業総合研究センターや水田農業試験場などの研究者らが集まり、県内各地の田んぼを巡回して、「雪若丸」をはじめとする稲の生育状況を調査しました。参加者が、葉の色や茎の数、葉の伸び方などをじっくりと観察したところ、生育は順調で、秋の実りが期待できるものでした。今回は人の目に加え、カメラを搭載したドローンも活躍！上空から田んぼ全体の色合いを調査し、生育ムラが少なくきれいにそろった田んぼであることを確認しました。

これから稲は穂を出して花を咲かせ、実っていきます。田んぼが黄金色になるまであと2か月ほどになりました。ぴかぴかの新米が待ち遠しいですね。



稲の生育状況を確認する参加者



ドローンを用いて100m上空から田んぼを調査

米づくりに、熱意を込めて。

皆さんは、稲作のポイントなどを学ぶ栽培研修会が県内各地で開かれていることをご存知でしょうか。稲の生育はその時々天候や環境により変動があるため、毎年同じように作業をすれば良いというわけではありません。生産者は栽培研修会に積極的に参加し、情報を共有し、おいしい最高のおコメを消費者の皆さんに届けようと強い熱意を持って米づくりに取り組んでいます。

地域の米づくりの模範となっている山形つや姫マイスターも、定期的集まり、高品質でおいしい「つや姫」の生産やブランドを向上させるためにとるべき行動について意見を交わしています。土屋 喜久夫マイスター（寒河江市）は現状に満足することなく、各地域のマイスターに熱く語りかけます。「他のコメに負けないよう、「つや姫」はもう一歩先に進まなければならない」。

山形県のおコメは、生産者の米づくりに対するたゆまぬ努力と熱意の賜物です。生産者は、消費者の皆さんに喜んでいただけるおコメを作るべく、今日も田んぼに足を運んでいます。



6/21「雪若丸」良食味米栽培研修会
（於：農業総合研究センター）



6/21 山形つや姫マイスターの会
（於：農業総合研究センター）



7/6 村山地域「つや姫」生産管理研修会
（於：つや姫ヴィラージュ）